

【情報理工学部】2024（令和6）年度 FD 活動の「年間計画」

1. 今年度の取り組み（前年度の「FD 年間報告書」から修正）

1. カリキュラムの見直しおよびコース毎のカリキュラムツリー作成・活用
2. 昨年度以前の学習成果実感調査分析結果や成績分布データを学部教員間で情報共有しつつ個別科目の改善策の検討・実践
3. 留年率の更なる改善のため、修学支援および学びの動機付けに関する取り組み（寺子屋やランチタイムトークなど）の実施
4. 高度情報系人材育成のための大学院進学プロモーション（他大学院への進学も含む）の実施および体制強化の検討

2. 「1」を踏まえて、今年度の重点テーマ・目的・期待する効果等についてお書きください。

(1) テーマ：

1. コース毎にコース要件科目などのカリキュラムの見直し検討を行い、コース毎のカリキュラムツリー作成
2. 学習成果実感調査や成績分布データに基づく個別科目の改善策検討
3. 留年率の更なる改善のための方策検討と取り組みの実施
4. 高度情報系人材育成のための体制強化を含めた教育研究内容の検討

(2) 目的：

一昨年度からカリキュラムの見直しを進めている。今年度は上記4つのテーマについて、下記の目的を設定して教育内容の充実化・改善を進める。

1. 必要に応じてコース要件科目の見直しを行う。また、コース毎のカリキュラムツリーが未完成のため、完成させて学生の修学指導に活用する。
2. 修学データ（過去の学習成果実感調査や成績分布データ等）の分析結果を学部教員間で共有し、コース毎の修了状況を把握すると共に個別科目の改善策を検討することで、教育内容を充実させる。
3. 上記カリキュラムツリーや個別科目改善策を含め、寺子屋での修学支援やランチタイムトークによる学生間の勉学動機付けを推進し、留年率をさらに下げる。
4. 様々な専門科目で、高度情報人材の必要性と共に大学院進学について言及し進学への意向を持つ学生を増やす。

(3) 期待する効果：

1. コースによってコース要件科目のまとまりが弱いものがあるため、それらコースの要件科目の見直しや授業内容の改善などを行う。また、コース毎のカリキュラムツリー作成は、学生にとって科目間の関係やコース毎の特徴をより捉えやすくなる。
2. 修学データから、カリキュラム全体はもちろんコースや個別科目の状況を教員が客観的に把握できることになり、それらデータから様々な学部教育の改善策が見えるようにする。
3. さらなる留年率の低下と学生の修学意欲の向上
4. 教育研究内容を充実させ、大学院進学者を増やして高度情報系人材を育成する。

3. 公開授業等について

公開授業やワークショップは、教員間で教授法を学び合う機会、学部のカリキュラム改善等について検討する機会として年1回以上設定・実施してください。

なお、実施にあたっては、出席者の記録をお願いいたします。出席者記録の提出は不要ですが、年間報告書にて、出席人数の記載をお願いいたします。

なお、出席者記録は、提出をお願いする場合がありますので、保管しておいてください。

(1) 公開授業・ワークショップ：

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

【公開授業】

- ・ 実施時期：秋学期
- ・ 科目：（案）プログラミング演習 B
- ・ 担当教員：水口教授、宮森教授、玉田教授、萩野教授
- ・ 科目選定理由：新たに Python を導入プログラミング言語として今年から実施していることから、その演習中の学生の様子をみて、次年度以降の新入生との違いを把握することに努める。

【ワークショップ】

- ・ 実施時期：秋学期初頭
- ・ 内容：必修プログラミング演習の改訂案に基づく各コース・個別科目の内容再検討

(2) その他研修会等：

※ (1) 以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

特に予定なし

※この内容は本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。